

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月日実施)	総合評価(月日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①1750分の授業時間確保のため55分授業への円滑な移行を図る。 ②平成29年度からの新たな教育課程を円滑に実施する。 ③朝学習、夏期講習・補習の充実に取り組む。	①②アクティブ・ラーニングの視点により「主体的・対話的で深い学び」を実現する。 ③講座数及び受講者数の増加を図る。 ○新学習指導要領に基づく教育課程を検討する。	①②A研修済み学習サイクルを落とし込んだワークシートによる授業を展開する。 ①②Bそのワークシートの教科共有化、蓄積を図る。 ③1学期中にニーズ調査を行う。 ○プロジェクトチームを組織して検討する。	①②A管理職の授業観察、教科の自己評価 ①②B教科の自己評価 ③実施の有無、実施結果の反映 ○検討の進捗状況					
2	生徒指導・支援	①生徒が安心して学べる学校づくりと支援体制の充実を図る。 ②生徒会活動及び部活動を通して、生徒の自主性や主体性を育てる。	①担当グループと各学年の総合力による支援体制の充実を図る。 ②「主体的・対話的で深い学び」の視点で育成する。	①担当Gグループリーダーのマネジメントと各学年リーダーのリーダーシップを連動させ、学年の実働力を向上させる。 ②生徒自らが課題を発見し解決すべく、その支援にあたる。	①担当Gグループリーダー及び各学年リーダーの自己評価 ②生徒の自己評価の分析					
3	進路指導・支援	①生徒の発達課題に応じたキャリア教育を実践し、生徒の自己実現力を育成する。 ②校内外の関係部署との連携を深め、生徒の個性や多様な進路希望に適した支援体制の充実を図る。 ③進路相談体制の強化、拡充を図る。	①キャリア教育と授業改革を一体化させ、資質・能力の向上を図る。 ②③外部機関と積極的に連携するとともに、カウンセリングの原点は進路指導であることを踏まえ、その充実を図る。 ○新調査書への対応を検討する。	①教科・教科外のあらゆる教育活動を「主体的・対話的で深い学び」の視点で実践する。 ②外部機関を積極的に活用し、タイムリーな研修会を行う。 ③具体の進路希望のみを焦点化することなく、じっくりと生徒と向き合う面談を行う。 ○紙ベース、ICTの両面から検討する。	①生徒の自己評価の分析 ②開催時期、開催回数 ③各学年の自己評価の分析 ○平成30年度末の生徒指導要録への対応状況					
4	地域等との協働	①地域との連携・協働により開かれた学校づくりを進める。 ②保護者・地域への情報提供に努め、家庭・地域の支援体制を整える。 ③横浜北東・川崎地域の高等学校との情報交換・交流により、教員の授業力向上と豊かな生徒発表の場を構築する。	①②学校運営協議会への円滑な移行を図る。 ③取組紹介に終始することなく、研究成果としてまとめ、発表する。	①②地域との連携、PTA活動の活性化、同窓会との連携を通して行う。 ②「仮説の検証」という視点を徹底する。	①②それぞれの取組状況 ③成果発表会での発表内容					
5	学校管理 学校運営	①防災に係る地域連携を進め、教職員や生徒の防災意識を高める。 ②事故防止会議(不祥事防止研修会)を実施し、教職員の危機管理意識を高める。	①地域防災に積極的に参画する。 ②不祥事防止研修会の内容の充実を図る。	①地域の防災訓練、防災会議に積極的に参加する。 ②企画会議を事故防止会議、職員会議を不祥事防止研修会とし、事故防止会議企画による不祥事防止研修会の充実を図る。	①それぞれへの参加取組状況 ②事故防止会議での企画立案状況、不祥事防止研修会での実施状況					